

松田 あずさ

地域おこし協力隊

移住・定住支援（令和元年～令和4年度）

一神奈川県川崎市から移住・
フリーカメラマン



4月の桜が満開の時期に雪が降り、
幻想的な風景をカメラに収めました

1番目の移住地は”石垣島”

25歳の時、仕事を辞めて沖縄県の石垣島に渡りました。ホテルでフレンチの配膳と料理の説明を担当していたのですが、お客様にお勧めの場所を教えていたのが好評で、社員登用の話をもらいました。今後どうしようかと考えたとき、居心地はいいけれどまだ挑戦したいと思い、島を離れることにしました。

当時は趣味で撮影していたカメラを本格的に学ぼうと、実家に戻り専門学校に行くことにしました。1年間通った後、プロになろうと決断し雑誌の撮影スタジオに就職、その後師匠についてさらに技術を磨きました。

義母に向いていると勧められた 地域おこし協力隊

秩父出身の夫と出会ったのは、好きなバンドのライブチケットを譲ってもらったのがきっかけでした。一緒にライブに行く度に、夫の地元の同級生と出会うのですが、みんな出身地を（埼玉ではなく）“秩父”と言う。さらに、「夜祭*」の日は必ず有休を取って帰る。地元愛に圧倒されました。

結婚し、夫の実家に帰っていた2019年の正月、義母が『地域おこし協力隊を募集しているから応募したらどうか』と勧められました。締め切りまで1か月を切っていたし、当時はフリーカメラマンとして仕事をもらっていたので、それを手放すのか悩みました。一方夫は、品川の職場に秩父から通勤するつもりで全然心配していませんでした。

応募したからには受かるつもりで、履歴書とは別に決意表明を書いて同封し、担当職員に会いに、東京のイベントに出展していた移住相談センターのブースにも足を運びました。

Q どうやって決断した？

A とことんノートに書くタイプ

環境を変えることで失うことではなく、「秩父で何をしたいか？できるか？」とポジティブなことを書き出す

その他決め手となったこと

- ・秩父を訪れた際に、そこで生活する目線で見れていた
- ・お気に入りですぐ立ち寄る場所（喫茶カルネ）があった
- ・30代がUターンして開業しているという話をよく耳にしていた⇒移住するなら老後ではなく“今行くのが楽しそう”

*秩父夜祭：ユネスコ無形文化遺産に登録される、秩父を代表する冬のお祭り。豪華絢爛な笠鉾や屋台の曳き回しや花火大会で全国的に知られている

「JOIN移住・交流・地域おこしフェア」では、
全員で秩父銘仙を来てブースを盛り上げました

協力隊としての活動履歴

- ✓ 「つながる、ちちぶ」プロジェクト
移住事例を増やせば、より地域性が浮かび上がってくる
⇒HPで専用ページ立ち上げ、現在17件公開
<https://www.chichibu-iju.com/chichibujin.html>
- ✓ 移住相談センターを外へPRしたい
⇒出張移住相談会（豊島区役所やふるさと回帰センター等）を実施

暮らす、
秩父



暮らす、
秩父



- ✓ 移住イメージポスター「暮らす、秩父」の写真撮影
- ✓ 地元高校カメラ部と秩父ファンクラブ*カメラ部のコラボ
⇒それぞれの視点で撮った写真を使い写真展を開催

現在

秩父市地域おこし協力隊”初” 産休・育休を取得

任期2年目に出産、育児のために1年間休業しました。秩父に来てから自然と子どもを授かり、自宅と職場、産院が徒歩5分圏内にあり安心して働くことができました。出産前から職場のサポートは心強く、産休中も復帰後に困らないように情報共有をしてもらったり、こちら子どもを連れて職場に顔を出したり、周囲が子どもの成長を見守ってくれる環境で子育てできたことは有り難く、秩父だったからこそ、このような関わりができるのだと思いました。



休日に息子と
羊山公園は芝桜で有名な観光名所です

退任後も移住支援に携わりたい

移住相談において心掛けているのは、その人に合った情報を提供すること。そのために、情報収集やお店の開拓も欠かせません。実体験をもとにアドバイスできるのが移住相談の醍醐味であるし、お勧めしたお店を実際に行ったと報告してもらえるのは嬉しいです。

秩父に来て、仕事やプライベートで出会った人や地域のつながりから、写真撮影の依頼をいただくことが増えて「直接必要な人に届けられている」実感があります。これまで築いてきた人脈や経験を活かして、今後も活動をしていきたいです。今は、写真の機材を置いたり撮影に使えるスタジオが欲しいです。

これから



お気に入りの場所「喫茶カルネ」のフリーペーパーの表紙を撮影させていただきました

移住者のコメント

秩父の移住相談センターメンバーは、初めてイベントで会った時から好印象でした。松田さんは誠実ですし。他の場所も検討しましたが、相性はあると思います。半年ほどで、直観を信じて移住を決断しました。

一津川 佳子さん

2022年7月

*秩父ファンクラブ：『秩父市が大好き！』『秩父市に興味がある！』人たちが構成されたコミュニティ。専用のコミュニケーションツール『Slack』を利用してコミュニケーションを取ったり、秩父の地域性を活かした体験型イベントもある。カメラ・アニメ・お酒などの部活動があり、会員が自ら企画したイベントを実施することもある。随時会員を募集中。